Sarasa Pickup Person

ＪＡ界の革新者

冨田隆のさらなる挑戦

ＪＡ越前たけふ
代表理事組合長
冨田　隆氏

政治力から農業改革の「聖域」とされているＪＡだが、政府は昨年１２月、２０１８年度のコメの生産調整、減反の廃止を柱にした農業強化策をまとめ、ＪＡを含めた農業改革は今年６月を目途に議論を本格化している。

政府がＪＡ改革の議論に踏み込むのは、農家のためのＪＡという目的が薄れ、農業強化のためにはＪＡ改革が避けて通れないからだ。そんな厳しい状況下で、田舎の小さなＪＡが市場で行き残りをかけ全国ＪＡ初の大胆な改革に取り組み、次々と新機軸を打ち出し成果を挙げ、ＪＡ界の「革新者」と注目を浴びているのが、冨田隆ＪＡ越前たけふ組合長だ。

今、何故日本晴なのか？

ＪＡ越前たけふの冨田隆組合長は昨年、「日本晴復活プロジェクト」を立ち上げ、かつてコメの主力品種として県内でも多く栽培され、現在では〝希少品種〟となりつつある『日本晴』の生産を今春から復活させる。14年産で２百ha作付し、18年産までに現在の大麦などの転作分に相当する１千haに拡大していく計画だ。既に14年産は、全量の販売先を関西地方で確保。自動更新を前提とした契約栽培を順次結ぶ方式で、生産者の所得安定を実現したい考えだ。

日本の稲作農業はＴＰＰ農業交渉が進められる中、関税撤廃や削減の動きがあり、国際価格に比べ非常に高い価格の日本のコメは、自由競争にさらされる恐れがある。併せて、食の欧米化や簡単化が進み、コメの消費は年々減っているのが現

Ｐ３２～３３の２ページ